



道外研修視察報告

令和6年9月25日～26日
千葉県鋸南町・茨城県行方市

【広報委員長 中山 義博】

令和6年9月25日（水）、26日（木）妹背牛町議会は、千葉県鋸南町、茨城県行方市で廃校になった『2つの小学校の活用』を視察研修。

はじめに、鋸南町の都市交流施設・道の駅『保田小学校』・「付属ようちえん」を視察。

鋸南町は人口6,744人、2014年3月までに小学校3校の集約を機に、2015年活用開始

①南房総の穏やかな気候
②アクセスは、東京（新宿）から電車で2時間30分、車で1時間16分、羽田空港から2時間、フェリーで1時間と立



地は良好。
③指定管理者含む平均雇用者数53名で（内、町内雇用者数26名と約半数）雇用創出、地域経済の活性化の場となっている。

④校舎棟は飲食・物販施設、簡易宿泊施設、入浴、公衆トイレ等を備え、バリアフリー配慮の駐車場等も完備されている。

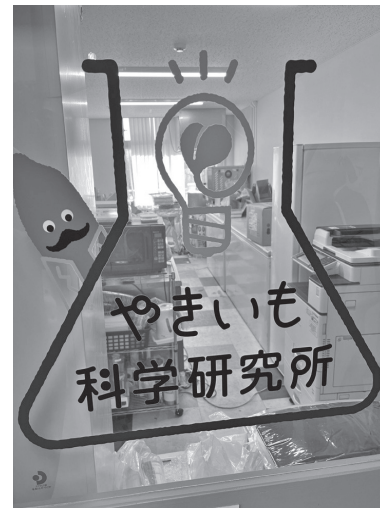
⑤全国12000の「道の駅」ランキング2位、年間100万人のよいこが訪れる施設に成長。

⑥「いつも立ち寄れば何かの学びがある」をテーマに、いつ訪ねてもワクワクとドキドキ感じられ楽しい毎日通学、心と心の交流を目指している。

道の駅『保田小学校』は、随所に町民と、町長と、校長の絆が有り妹背牛町の運営に参考に成りました。

次に行方市について。2012年に『株式会社なめがたしろはとファーム』を設立（白ハト食品、JA、農家300人が3億円を出資）

『体験型農業テーマパークとして活用』



る事から進出の検討が進められていた。学校統廃合で発生した廃校の活用を検討していた行方市がこれに加わり、「農業をステキにする」テーマパーク構想が進められてきた。

茨城県行方市は、2005年9月に麻生町、玉造町、北浦町が合併、行方市が発足。2024年11月現在、人口31,000人の市です。

①交通アクセス、東京駅から車で約80分、羽田から車で約90分

②2014年旧市立大和第三小学校を行方市から購入し設立

茨城県行方市の『らぽぽなめがたファーマーズ・ヴィレッジ』は2015年にオープン総事業費45億円、雇用205名（地元150名含む）

①焼き芋の大手（全国シェア80%の白ハト食品）は、JAなめがたから納品されたサツマイモを関西や九州で加工し全国で販売していたが輸送・コスト等を軽減出来

②学校体育館の円形の加工工場では、サツマイモ工程を窓越しに見学でき、冷凍倉庫など、驚きです。ミュージアム、レストラン、カフェを設置している。さらに周辺には、オーナー専用貸農園、クラブハウス、宿泊施設、直営農場やサツマイモ貯蔵庫等を併設した。

視察研修終えて、企画や十分な準備をした上でスタートし、絶えず、日々改善することとは勿論ですが、道の駅保田小学校の校長さん、白ハトグループのシニアマネジャーさんのパワフルな能力で信頼を得て町長、社長がバックアップすることによる繁栄の継続を見てきました。

【広報副委員長 成瀬 勝幸】

今回の道外視察研修は、廃校となった校舎の活用を目的として、2箇所視察をしました。

最初に鋸南町は、人口6,726人（令和6年9月現在）で、基幹産業は、水稲・野菜・花卉等の栽培を中心とした農業と沿岸漁業を中心とした漁業の町である。

少子化に伴い、町内に3つあった小学校を2014年から1校に集約し、2015年から廃校になった1校の校舎をリノベーションし、直売所や商業機能等を併せもった施設とし、施設を活用してコミュニティの核を作る「都市交流



施設・道の駅保田小学校」として指定管理者制度で開業している。また、雇用の創出や地域経済の活性化の場となり、大きな役割を担う施設としての効果をもたらしている。

次に行方市は、人口31,671人（令和6年9月現在）で、基幹産業は、農業で温暖な気候と豊かな大地を生かし、年間を通して80品目以上の農作物が生産されている市である。

なめがたファームビレッジは、廃校になった旧市立大和第三小学校を行方市より購入し、行方市の特産物である「サツマイモ」に関する体験型農業テーマパークである。廃校



になった小学校をリノベーションし、食品加工場、ミュージアム、レストラン、カフェを設置している。更に周辺には、オーナー専用貸農園、クラブハウス、宿泊施設、直営農場やサツマイモ貯蔵庫等を併設し、廃校を中心としたエリア一体を農業のテーマパークとして運営している。廃校を活用することで、単なる製造工場にするのではなく、農業体験や新商品開発を通じて観光振興や雇用創出にも資するなど、地方創生の実現に向けた大きな廃校活用事業となっている。

少子化に伴う児童生徒数の減少等により、毎年450校



程度の廃校施設が生じていると言われているが、本町も小中学校の老朽化等に伴う建替え事業を検討しており、その廃校施設は、町にとって貴重な財産であることから、地域の実情やニーズを踏まえながら有効活用していくことで、維持管理費や公共施設の施設整備コストの縮減、地域コミュニティの維持・活性化、産業振興や雇用創出など、様々な効果が期待されていますが、中々手を挙げる企業等も少なく課題も多くあります。

今回の先進地視察研修で得られた事例も今後の町づくりの参考に生かしていければと思います。

スマホでパソコンで気軽に議会を傍聴



妹背牛町議会のYouTube配信を始めました

妹背牛町議会ではYouTubeにて定例会での各議員の一般質問を本会議終了後に公開しています。お気軽にご視聴ください。

妹背牛町議会 YouTube 検索

